

121130 樹上で鳴く虫 (カネタタキ・アオマツムシ)

歩道沿いのサクラの木に、体長 10 mm 強のバッタの仲間がいました。

「アオマツムシ」の幼虫に似ていますが、冬も間近なこの時期、まだ幼虫で活動しているバッタ類はあまり見たことがないのですが...

図鑑で調べてみると「カネタタキ」の雄でした。

この種は翅(はね)の退化が進んでおり、雌は無翅ですが、雄には発音用に前翅が残っているものの、とても小さな鱗(うろこ)状に過ぎませんので、一見“幼虫”のように見えてしまいませんね...

さて、この「カネタタキ」...

成虫を見ることができるのは 8 ~ 11 月頃で、野生下では最も遅くまで鳴き声を聞くことのできるバッタの仲間と言えましょう。

気温の低くなった秋以降は、昼も夜も「チッチッチッチ」或いは「チン チン チン」と鳴き続けますが、姿を見つけることは結構難しいですね。

また、この種は樹上での生活を好み、都市部やその近郊の街路樹や庭木にも生息している半面、山地部にはほとんどいないようです。

写真 : カネタタキ (雄)

【撮影：11 月中旬】

写真 : アオマツムシ (幼虫)

【撮影：8 月下旬】

もう少し若い幼虫は体色が赤褐色で、カネタタキの成虫にそっくりです。

写真 : アオマツムシ (雄)

【撮影：9 月中旬】

写真 : アオマツムシ (雌)

【撮影：11 月下旬】

アオマツムシ

中国原産種で、日本には明治時代に入り帰化したという説が有力なようで、日本在来種の「マツムシ」とは姿も鳴き声も異なります。

体長は 20 ~ 25 mm、体型は紡錘型で、雌はほぼ全身が鮮やかな緑色ですが、雄は背中の中中央部の翅が半透明で、褐色の背中が透けて見えます。

「カネタタキ」と同様、樹上性の種で、街路樹があればそこで暮らすことができますので、都会でも適応して生息域を広げています。

お盆を過ぎたころから夕刻になると、「リュールュー」或いは「リーリー」と聞こえる大合唱が夜遅くまで続き、他の種の鳴き声がかき消されてしまうほどです。

(秋の虫の声を楽しむには、アオマツムシが鳴きやむ夜遅くまで待たなければなりません...)

体型が平たくて、素早い動きから「アオゴキブリ」と呼ばれることもあるようです...







